

人が育ち、
自然と産業が息づくまちを目指して

中小企業の熱意が 田川を変えていく

2017年田川市中小企業振興基本調査



平成30年（2018年）11月
福岡県田川市産業振興会議

1. 熱く響く「田川が好き」コール

○ 田川が好き（調査の自由記述欄より抜粋）

- 地域と中小企業との関係はお互い様関係で、いずれもが必要とされる存在であってほしい。
- 地元の企業として市民にもっと良い印象を持って頂ける企業であるよう考えています。
- 地元根付いた中小企業は、市民にとって相互に助け合う大切な関係だと思います。特に実感した事は、地域のお祭りやイベントを主催したときなど、地元企業の方はイベントの内容に賛同してくださる方々が多く、地域と密接な繋がりがあるなと思いました。
- （中小企業振興を）知って頂き、家族内での会話になってほしい（「田川はダメだから市外へ行きなさい」というセリフはもう嫌です）。
- 大好きなふるさとをしっかりと楽しんでいけるように、みんなで頑張りましょう。
- 中小企業振興への行政の取り組み方の熱意を感じました。このままではいけないと以前から思いつつ、ようやく私に出来ることは……？と考えることが出来そうです。是非、1つ1つを確実に形にして行きましょう！ 出来る範囲……全力で取り組みます。
- 雇用の促進により地元での雇用確保につなげることが企業としての責任のひとつであり、何かもっと市民とのつながりを持つためやるべきことを果たして行かねばなりません。

○ 田川の優れた所（調査の自由記述欄より抜粋）

- 自然に恵まれ子育てがしやすい。
- 自然災害が少なく、住みやすい。
- 永年生活しているが、安心してすごせている。
- 環境的には空気もよく、治安もよくなった。
- 車があれば、福岡県の主要都市に比較的近く、アクセスしやすい。
- 他の地域より物価が安く生活しやすい、最近の災害を考えたとき、盆地の田川は安全性が高い。自然環境もきれいに片付けていけば素敵な地域になるように思う。経済も大切ですが、人が安全で安心して暮らせることがなにより大切なことと思います。
- ボランティア活動が拡大して、だんだんと美しい田川に進んでいると思う。
- 自然が美しく、人情のあるところが良い。文化面でもすばらしい人材も多い。
- 最近街がキレイになってきているように思います。目にうったえることもとても大切だなと思えるようになります。

『2017年田川市中小企業振興基本調査』（概要）

目的 : 市内の中小企業、小規模企業が元気になる制度や仕組みと一緒に考える基礎資料とする。

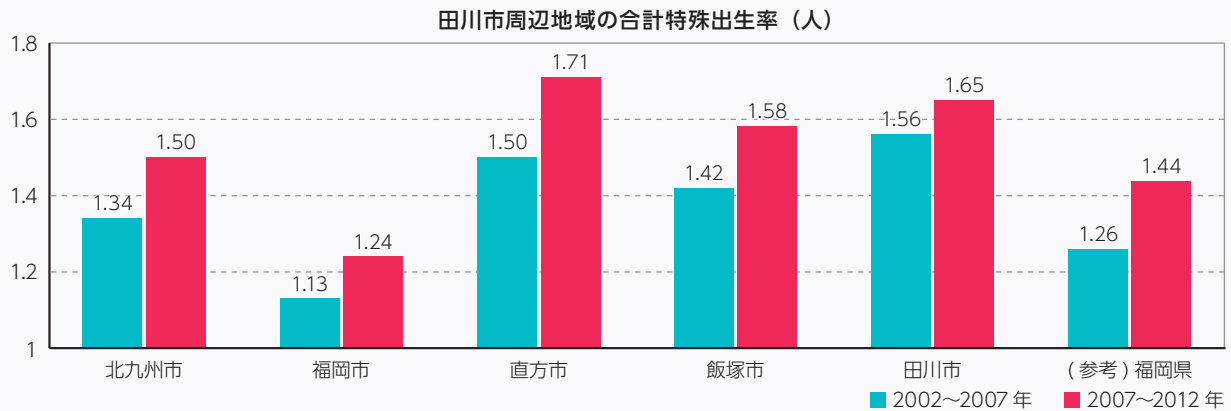
対象 : 市内全事業所（名簿；2014年経済センサス）

時期 : 2017年11月～12月

調査事項 : 事業所の状況／事業所の強み／事業所の課題／人材に関すること／売上・収益に関すること／今後の事業展開、事業承継／中小企業支援／立地環境／中小企業振興基本条例

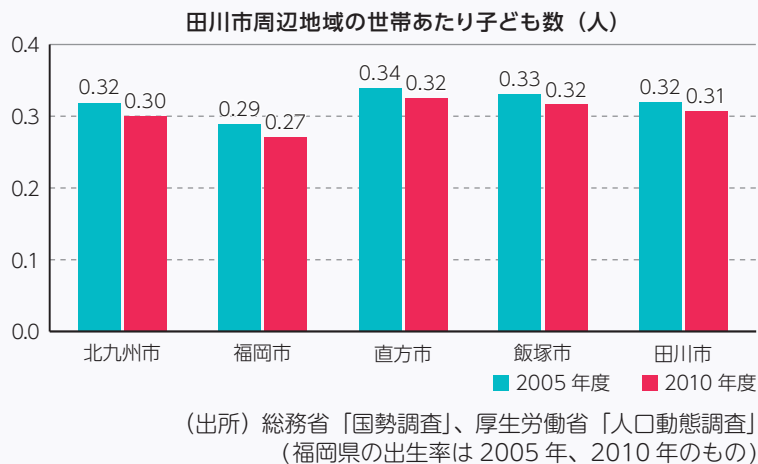
回答状況 : 対象事業所数 2,104、有効回答 751、回答率 35.7%

2. 出生率が高いまち



○ 田川市の出生力

田川市の周辺地区は合計特殊出生率が比較的高い。中でも田川市は出生率が上昇傾向にある。合計特殊出生率とは一人の女性が一生の間に産む子どもの数の平均値のことで、日本では 1970 年代以降減少を続け、2012 年の合計特殊出生率は 1.41、2014 年は 1.42 である。



世帯あたり子ども数を計算すると、田川市および周辺地域では、一つの世帯当たり平均 0.3 人程度の子どもがいる。

この水準と出生率の高さを今後、維持・向上させられるかどうかは、まちの活性化の進行と密接に関係してくる。

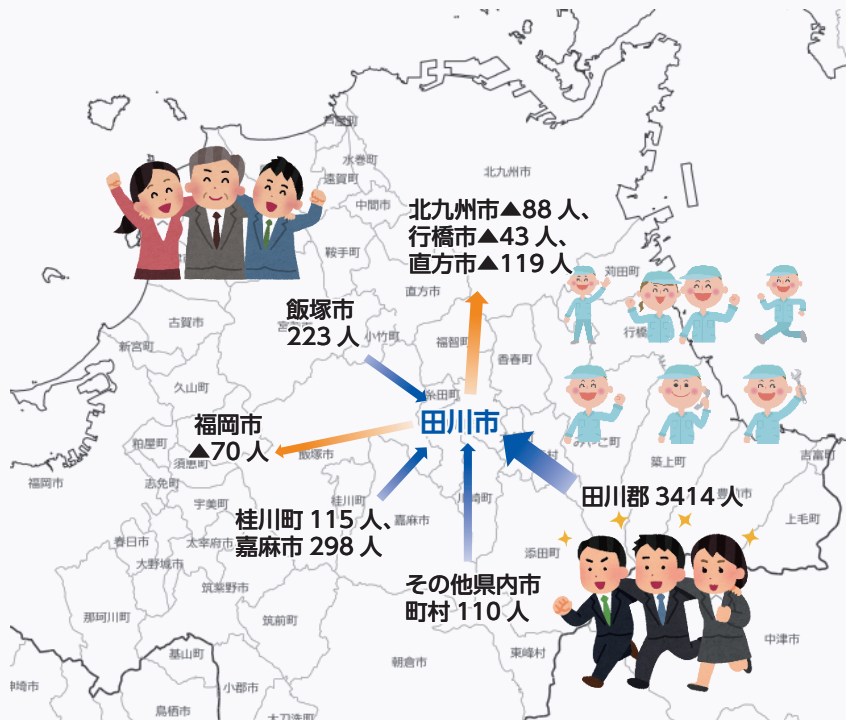
○ 田川市中小企業振興基本調査より

「田川市では高校を卒業すると市外へ勤務先を求める傾向が強い人口流出地域である。それは地場の魅力ある企業がどれくらいあるかが未知数であるためかもしれない。情報が不足しているのかもしれない。学校教育においても教員自身がまずは知ることができないと子どもに対しても、学力の高い大学への進学、安定した大企業への就職だけが促される。中小企業側も努力が必要な点があるのはもちろんであり、努力して成果を挙げている地場の中小企業の情報を学校教育の場で共有できていく仕組みがあれば優秀な人材を地域に残し、発展していく原資となれるかもしれない。」（調査の自由記述欄より）

3. 就業者が集まる田川市

○ 周辺自治体から田川市に働きに来る就業者たち

2015 (平成 27) 年国勢調査によると、田川市は働きに行く就業者 (19,291 人) より、働きに来る就業者 (23,132 人) が約 4 千人も多い。性別不詳を除いて、その内訳は女性就業者が 2,253 人で、男性就業者が 1,588 人となっており、昼間の時間帯を中心に周辺自治体から就業者が多く田川へ働きに来ていることが自治体としての魅力を高めている。



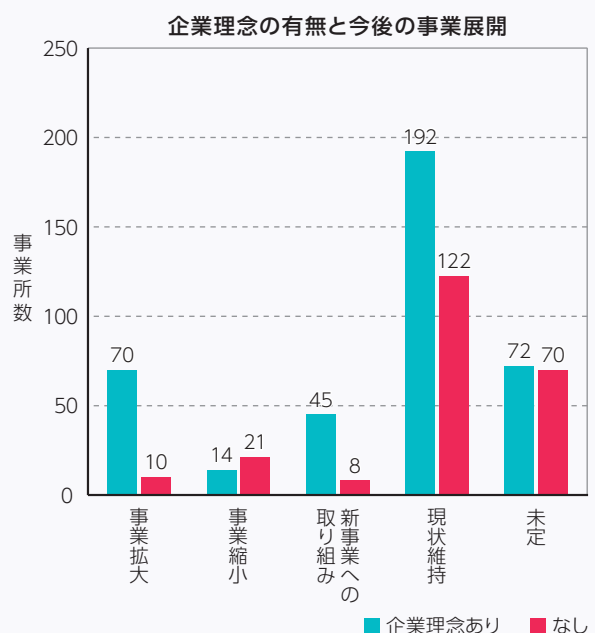
(出所) 国土地理院 (地図)、国勢調査 (データ)、田川市各種資料より作成

○ 田川市産業特性上の強み

公的統計によると、田川市最大の産業は、保健衛生・社会事業で経済規模の 2 割を占めている。一方 IT 産業や専門技術を伴う企業が少ない。田川市の事業特性は、事業規模が相対的に小さくて小回りが利きやすいことにある。

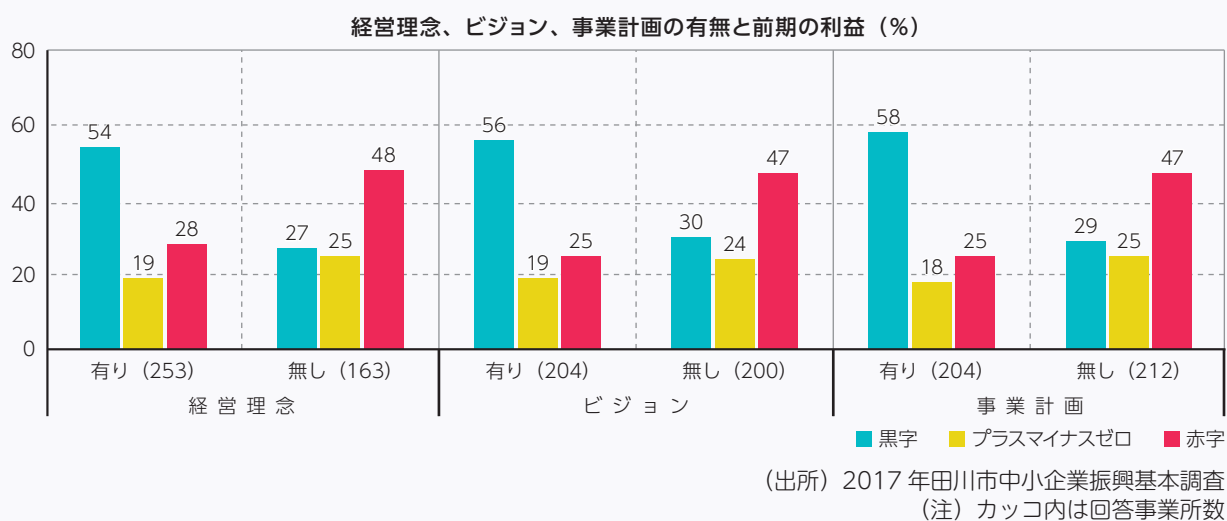
近年福岡・北九州地域は他地域からの人口流入やインバウンド消費の拡大を受けて好調が続く一方、飯塚・田川といった地域はその流れに乗り切れていない。

そうした中で田川の事業所の中には、理念や計画性を備え、デメリットをメリットに転化して事業拡大につなげようとする動きが出ている。今回の調査結果から、企業理念を持ち、計画性を持った事業所の方が積極的に事業展開をしている傾向が明らかになった。



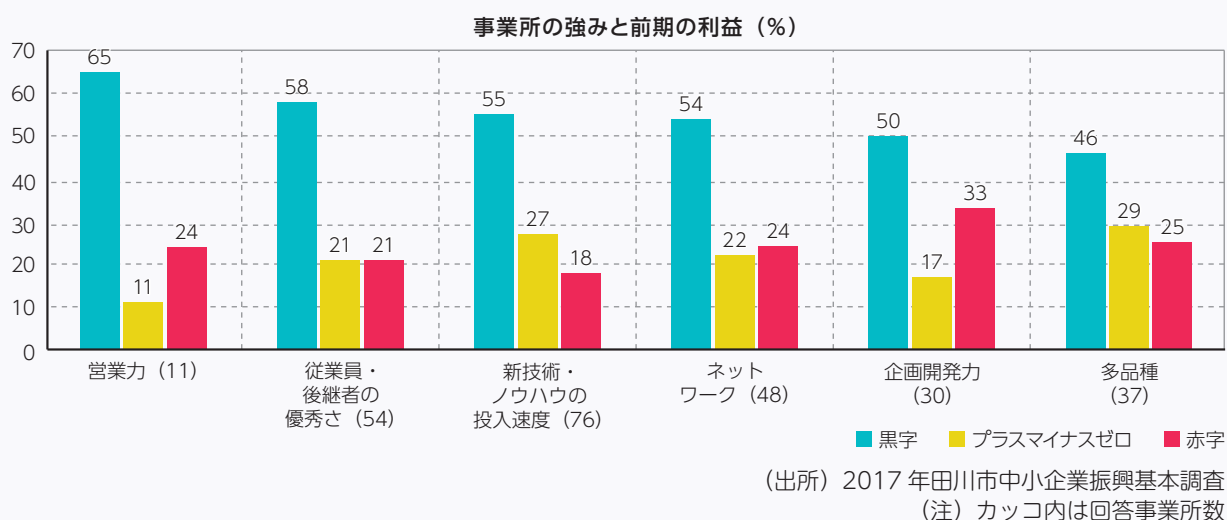
(出所) 2017 年田川市中小企業振興基本調査

4. 地域経済の発展を担う中小企業



○ 経営理念、ビジョン、事業計画を策定することが重要

経営理念、ビジョン、事業計画を持っている事業所は、持っていない事業所と比べて、黒字の傾向が強かった。自社のありたい姿を構想し、それに向かって具体的な事業計画を立てることが、利益につながっていると考えられる。



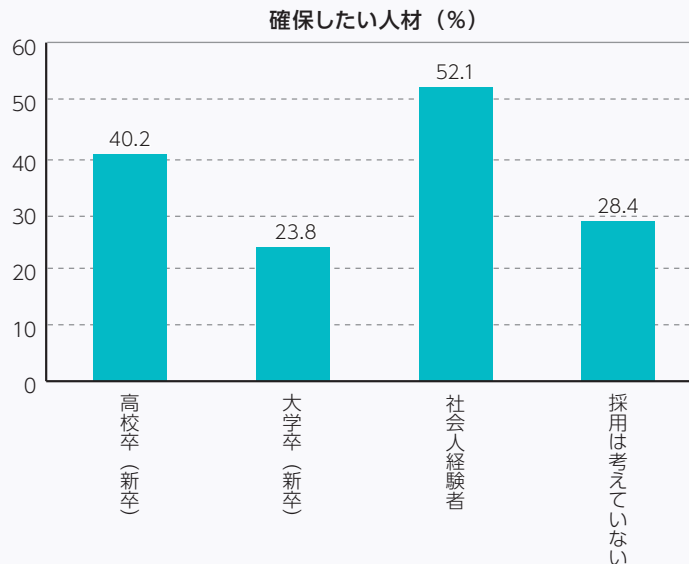
○ 収益力のある事業所の強みはひと

営業力を強みとする事業所は、黒字の傾向にある。また、従業員・後継者の優秀さを強みとする事業所も黒字の傾向にある。田川市において収益力のある事業所の1つの特徴は、ひとを強みとしていることにある。

5. ひとを大事にする企業が伸びている 大事なのはそうした企業への目利き

○ 企業は人材を求めている

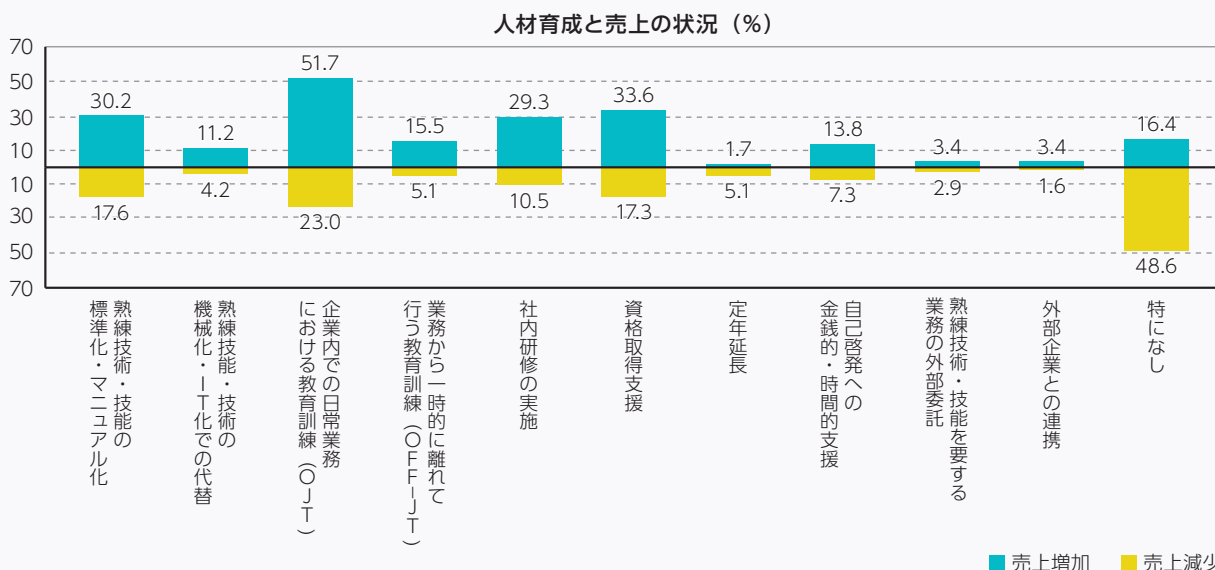
市内事業所は「人材の確保・育成」を大きな課題として捉えている。人材を確保できていないと考える事業所のうち、採用を考えているのは7割を上回っている。特に、「社会人経験者」が52.1%と多くなっている。地元田川市からの採用希望に限ると「高校卒」が最も多くなる。市内事業所は「現場・作業」の分野での人材が不足していると回答しており即戦力の人材を求めている。



(出所) 2017 年田川市中小企業振興基本調査

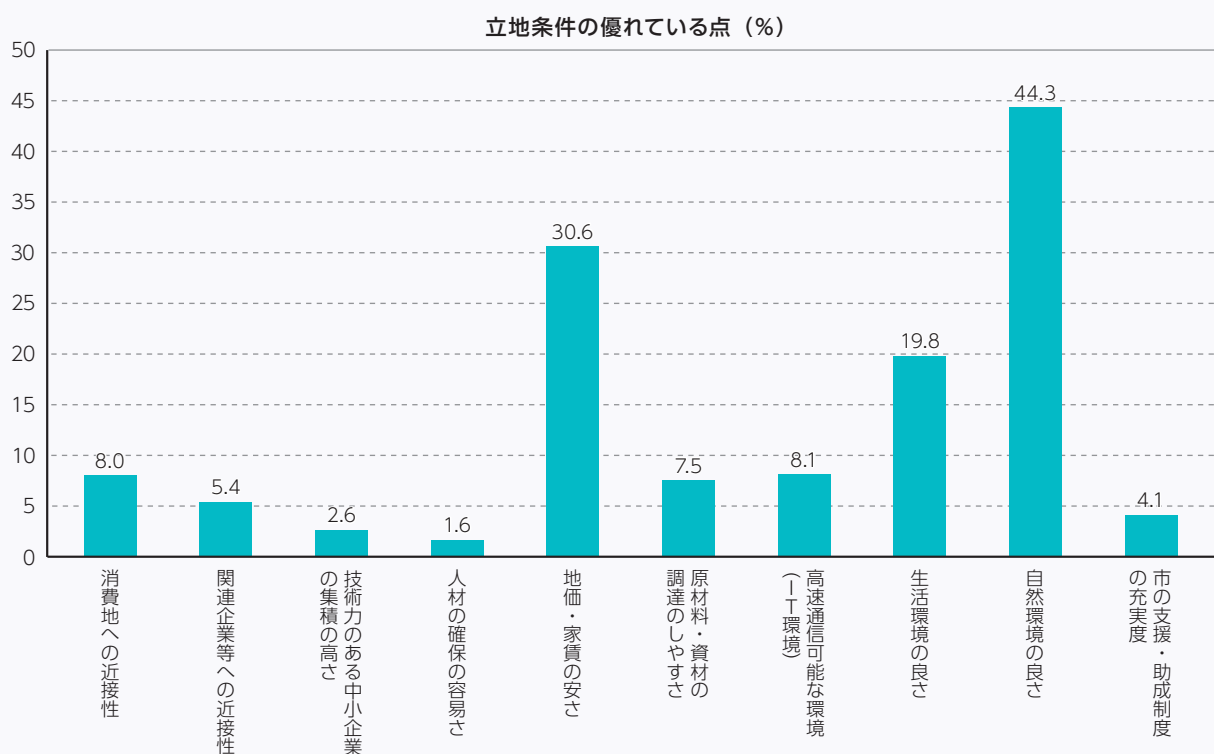
○ 売上を伸ばすヒントは人材育成

企業を伸ばすためには、人材を確保するだけではなく、人材育成が欠かせない。それは「人材育成に必要な取組み」と「売上の状況」との関係を見ると明らかである。「売上が減少」と回答している事業所の48.6%が「特になし」と回答しており、一方、人材育成を重要視している事業所では売上の増加しているところが多い。ひとを大事にすること、それが企業を伸ばす大きな要素だと思われる。



(出所) 2017 年田川市中小企業振興基本調査

6. 田川市の資源をどう使うのか



(出所) 2017 年田川市中小企業振興基本調査

○ 立地条件のアドバンテージ

立地条件は、各事業者が事業計画・経営戦略を考える上で、とても重要である。田川市の場合、各事業者が考える立地条件の優れている点は、「自然環境の良さ」、「地価・家賃の安さ」の2項目が際立っており、「生活環境の良さ」がそれに続いている。

○ 田川市の豊かさ

今後田川市の産業振興を図っていくにあたり、田川市の豊かさとは何かを考えることは大きなヒントになる。事業者にも、次のような意見があった。

自然の豊かさ、物価の安さの利点をいかし切れてないように思います。過去の遺産（炭鉱の町）のイメージが強すぎる。新たなイメージの創出、若い子どもたちや年配者が積極的に参加したくなる楽しくて美しい地域づくりを希望しています。

このように、「田川の人や自然を生かすべきだ」という声が一定数ある。田川市が持つ人材、文化、自然資源を再発見し、どのように新しい田川「像」を描き、そしてクリーンな産業・経済に結び付けるか。新たな田川市の一步を踏み出すために重要な点である。

7. 条例を活かし企業とまちを活性化

田川市中小企業振興基本条例（施行 平成27(2015)年9月28日）

条例の目的

市内中小企業の振興に関する施策を総合的に推進し、もって地域経済に活力を生み、豊かで住みよいまちの実現に寄与することを目的とする。（第1条）

事業者の声

- 健全な経営、円滑な事業承継が出来るよう、事業者自身の意識改革も必要ではないかと改めて感じています。
- 雇用の促進により地元での雇用確保につなげることが企業としての責任のひとつであり、何かもっと市民とのつながりを持つためやるべきことを果たして行かねばなりません。
- 中小企業は地域経済そのものであり、中小企業の元気が地域の元気。中小企業が衰退すれば地域経済は立ち行かなくなり、消費の落ち込みの影響で大型店の撤退もあり得る。
- 中小企業と地域は一心同体の関係にある。
- 中小企業の経営基盤の強化や人材育成等の中小企業振興に関する施策を推進することにより、中小企業の活性化が図られると思います。

（調査の自由記述欄より抜粋）

市民目線の声

- 中小企業をはじめ田川に働くところがないと、居をかまえても市外に勤めにすることになり、地区自治体の若い世代離れの要因だと思います。
- 都市の美観的な都市計画が無い。
- 田川市の良いところは、行事に対して熱い気持ちで多くの方々が取り組む姿勢があること。他の地域より暖かい心を持った方が多い。心の宝を生かせると良い。
- 市民にとって豊かな生活を送る為には各自が自分の役割を果たし、働き、会社に貢献することが必要です。中小企業がより良くなることが、市民が良くなる事です。
- 人口減のスピードが早くなっているように思います。早急な対策を産学官で取り組み、子どもを育て、地域に子どもを残す取組みに力を注いで頂きたい。

（調査の自由記述欄より抜粋）

市の役割（第5条）

- 中小企業振興施策の策定、実施
- 関係団体との協議の推進
- 受注機会の増大
- 市民への広報・啓発
- 情報収集及び提供

中小企業者の役割（第6条）

- 経営の向上及び改善
- 雇用環境の整備
- 地域社会への貢献
- 関係団体との連携・協力
- 中小企業振興施策への協力

施策の基本方針（第4条）

- 経営基盤の強化
- 人材の育成・確保、雇用の創出
- 協働関係の創出
- 地域資源の活用
- 地域産業の集積維持
- 海外展開の推進
- 情報の発信・収集、共有機能の強化

目指すところ：次代を担う子どもたちや孫に未来ある地域を残す

2018年11月13日